

科学の目で見た世界自然遺産・知床

～科学委員と語ろう!その現状と未来～

知床が世界自然遺産に登録されて3年が経過し、今年2月にはユネスコ/IUCN(国際自然保護連合)による調査団が知床にやってきました。科学委員会による知床の科学的な管理は調査団にも高く評価されています。「科学委員会ではどんなことが話し合われているの?」「科学委員会の委員ってどんな人?」こんな素朴な疑問に科学委員会の委員がお答えします。

羅臼岳
標高1,661m
自然を大切に。
環境省・林野庁

◎ 日時

◆平成20年11月18日(火)
18:30～20:30(斜里町)

◆平成20年11月19日(水)
18:30～20:30(羅臼町)

◎ 場所

◆斜里町立知床博物館(斜里町)

◆羅臼町公民館(羅臼町)

プログラム

- 挨拶:大泰司紀之(知床世界自然遺産地域科学委員会委員長)
- 調査の現状と今後の方向性について(各発表25分程度)

《知床の海とその管理》
【桜井 泰憲】
海域ワーキンググループ座長

《ダム改良とサケ・マスの遡上促進》
【中村 太士】
元河川工作物ワーキンググループ座長

《エゾシカの急増とその影響》
【梶 光一】
エゾシカワーキンググループ座長

- 質疑・懇談(30分程度)
- 総括:大泰司紀之(知床世界自然遺産地域科学委員会委員長)

どなたでもお気軽にお越しください

知床の海とその管理

桜井泰憲【海域ワーキンググループ座長】

知床の世界遺産登録の際に、IUCN(国際自然保護連合)からは「海域管理計画」を早期に策定するよう宿題が出されました。海域ワーキンググループでは、専門家や関係行政機関、漁業関係者が議論を重ね、「海域管理計画」を策定しました。

そして、現在は具体的な「生態系の保全と持続的漁業の共存」に向けた長期モニタリングが始まっています。

知床は、漁業者や地域住民の意識が高く、持続的な水産資源管理の確立を目指している地域として国内外に広く知られています。知床を例とした日本の沿岸漁業が、日本国内ばかりではなく、世界の水産資源の持続的利用と海洋生態系の保全に果たす役割は大きなものです。



ダムの改良とサケ・マスの遡上促進

中村太士【元河川工作物ワーキンググループ座長】

河川工作物ワーキンググループでは、知床のダムをひとつひとつ分析し、その結果、改良すべき13基のダムを選び出しました。

サケ・マスの遡上が促進され、なおかつ防災機能が変わらない改良方法も検討しました。

現在、これらのダムの改良が順次進められ、一部のダムは改良工事が完了しています。当日は、改良したダムの今の姿と、改良後の遡上状況の変化などについて紹介します。



エゾシカの急増とその影響

梶 光一【エゾシカワーキンググループ座長】

知床では、過去20年間でエゾシカが大発生し、樹皮食いなどの自然植生へ与える影響が大きくなり、その影響は過去100年で最大規模のものであることが判明しました。そのため、専門家と関係機関からなるエゾシカワーキンググループでは、「知床半島エゾシカ保護管理計画」の策定や知床半島のエゾシカの保護管理について議論を行ってきています。

知床の自然を守って行くには、予防原則に基づいて、できるだけ早急に個体数調整を含めた保護管理措置を進め、シカと植生の関係についてモニタリングを継続していくことが重要です。



【主催】 知床世界自然遺産地域科学委員会 (事務局:環境省釧路自然環境事務所、北海道森林管理局、北海道)

【協力】 斜里町、羅臼町

【お問い合わせ先】 環境省釧路自然環境事務所 担当:水崎 TEL:0154-32-7500